

学校の歴史を知る

—初代校長 三好学から学ぶ—

校長 土屋 美之

土岐小学校の初代校長は、三好学先生です。三好先生は後の植物学の第一人者であり、東京大学の教授にもなった人です。桜の研究でも有名であり、桜博士とも呼ばれています。その三好先生が生きた時代は幕末から昭和初期にかけての激動の時代です。誰もが社会の大きな変化の激流に流され人生を翻弄された時代でした。その激動の時代でも、時代を読み、自分は何を成し遂げなければならないかを考え、行動にうつした人です。その三好先生は土岐小学校時代、生徒にことあるごとに志の大切さについて語っていました。ここで紹介します。

「ことに取り組む時には、その目的が必要です。目的がなければ志が立ちません。志が立たなければことを成し遂げることはできません」

皆さんは目標達成シートを作成することで志を立てることができました。どうぞ、三好学先生に習って、志をもって、これからの未来を自分の手で切り開いてください。 以下省略

これは昨年度卒業証書授与式の式辞の一部です。

土岐小学校 OB・OGの中には素晴らしい方がたくさんいると思いますが、本校初代校長もその一人です。激動の時代の中で、高い志をもって生活する三好学先生の生き方は子どもたちにも知ってほしい。混沌とする現代社会においてもぜひ参考にしてほしいと願い、式辞の中に取り入れました。

ちなみに、式辞の中では述べませんでした。校長時代、平日は子どもたちのために夜遅くまで働き、土日は愛知県犬山市に行き、学問に磨きかけたそうです。瑞浪から犬山まで総距離31.2km。当時は車があるわけもなく、その道のりは大変だったことと容易に想像がつかます。また、大雪や暴風雨、炎天下など、困難を極めた時もあったことでしょう。それを約1年7か月も通ったそうです。そこまで勉学に打ち込む姿は私たちも見習うべきところが多いです。



校長室に飾られている写真

毎年、1年生は学校探検をします。当然、校長室も回ってきますので、今年三好学先生の写真を紹介しながら、上記の話をしようと思っています。また、学校報を見て「見たい!」と希望する2年生から6年生がいれば、校長室に招きたいと考えています。

最後になりますが、毎年恒例の「土岐川河川敷に鯉のぼりを掲げる会」の皆様のご協力により、土岐小学校に鯉のぼりを取り付けていただきました（今年は3階の鯉が泳いでいるようになっています）。鯉のぼりには、「健やかな成長と立身出世を願う」意味が込められています。「土岐っ子」が健やかに成長できるよう、家庭でも地域でも応援のほど、よろしくお願いいたします。

